

『松谷みよ子の紙芝居脚本―児童書との書き分け―』

教育学部国語国文学科四年 野口ひかり

『松谷みよ子の紙芝居脚本―児童書との書き分け―』

目次

はじめに

第一章 紙芝居の歴史

一、 紙芝居の成立

一・一 概略

一・二 立絵から平絵へ

二、 戦前の街頭紙芝居から教育紙芝居

三、 国策紙芝居

四、 戦後の街頭紙芝居

五、 紙芝居のこれから

五・一 現在の紙芝居の活用方法

五・二 世界と紙芝居

第二章 紙芝居と児童書

一、 松谷みよ子氏について

一・一 松谷みよ子氏の経歴

一・二 先行研究

二、 研究方法

三、 一覧表

四、 紙芝居と児童書の比較

四・一 民話作品

四・二 ちいさいモモちゃんシリーズ作品

四・三 赤ちゃん向け作品

四・四 比較結果

おわりに

注釈

参考文献

はじめに

紙芝居はほとんどの人が触れたことのある児童文学である。自分が幼稚園に通っていた頃、小学校低学年だった頃、紙芝居は身近な存在であった。しかし、年齢を重ねるにつれ紙芝居に触れる機会はほとんどなくなっていく。書店等で児童書を見かける機会はあったとしても紙芝居を見ることはないだろう。また人気の児童書がメディアに取り上げられることはあったとしても、人気の紙芝居がメディアに取り上げられることはないだろう。大人になってしまった現在、私にとって紙芝居は遠い存在になってしまっている。

しかし様々なツールがあるはずの現代においても長年保育教材として用いられているということは、幼少期の私が気づかなかったような魅力があるのではないかと考えた。誰しもが一度は触れたことのある紙芝居について、大人になった現在の目線で研究を進めていくことで、紙芝居の新たな魅力を発見することができるのではないかと思う。

第一章では、紙芝居の歴史について述べていく。紙芝居がどのように成立し、どのような存在として受け入れられていたかを考える。

第二章では、松谷みよ子氏の紙芝居脚本と児童書の比較を行う。菊池好江氏は松谷みよ子氏の紙芝居『うみにしずんだおに』について次のように述べている。

この作品は、絵本でも「海にしずんだ鬼」（絵・斉藤博之）があります。絵を描かれた方は違いますが、文章はともに松谷先生によるものです。ただ同じ文章ではありません。読む絵本の文章と演じる紙芝居の脚本という明確な書き分けがなされているのです¹。

松谷みよ子氏は、同じ物語を紙芝居と児童書で書き分けているのだという。

児童文学作家であるだけでなく、劇団員としての経験があり、民俗学者でもある松谷みよ子氏だからこそ、児童書と紙芝居脚本とを明確に書き分けているのではないかと考える。そして紙芝居と児童書それぞれの本文に当たり、実際にどのような異同があるのかを調査していく。

第一章 紙芝居の歴史

一、紙芝居の成立

一・一 概略

紙芝居は、絵解き²が源流であるとされており、その後、写し絵³や立絵⁴などを経て、立体である立絵から平面である平絵へと移行し、誕生したと言われている。このような長い歴史からも紙芝居は日本独自の文化であると言えるであろう。

立絵は紙で芝居をすることから「紙芝居」と呼ばれるようになった。そして、現在の紙芝居が「紙芝居」と呼ばれていることは、このことに起因しているとも言われている。

一・二 立絵から平絵へ

紙芝居の成立において一番重要である「立絵から平絵」への移行についてくわしく見ていく。

立絵を始めたのは、先代が飴の行商人であった栗田某であり、それは一九〇〇年頃のことであった。当時、紙芝居の親分であった栗田某に弟子入りす

るには高額の入門料を支払わなければならず、一九〇二年の時点で紙芝居をやっていた者は深川から千住大橋の間にわずか四人しかいなかったという⁵。

一九二三年に関東大震災が起こる少し前から栗田門下とは別に江川正之助が紙芝居の貸元を始めた。当時、栗田一派の賃料が二銭であったのに対して江川は十五銭をとっていた。栗田氏は何かと高額な軍用金を徴収していたが、江川氏はそのようなことはなく、その後発展していく貸元の原型になったと言える。

立絵を演じるには高度な技術が必要であり演じるのは容易ではなかった。また、立絵に必要な道具は移動する際に壊れたりなどしないよう、丈夫なものが要求されるようになったため、道具一式は重くかさばり運ぶのに不便であった。

当時の日本は、一九二三年に関東大震災、一九二七年には金融恐慌、一九二九年には世界大恐慌に巻き込まれるなど、多くの失業者を抱えていた。その失業者の中には、飴を売って立絵を演じる紙芝居屋に転身する者も少なくなかった。

このように、演じるうえで不便であるという点と、素人の演者が増えたという点から、一九二九年にはそれまで立絵一式を借りて演じていた若者たちが立絵の革新を図った。演じることも運ぶことも、より簡単な平絵を活用するようになったのである⁶。

前述したように、立絵を演じるには高度な技術が必要であったがその技術を持っている者は多くなく、彼らは立絵を簡易的に演じる方法を生み出していった。しかし、このような簡易的な立絵に対しては「インチキである」と批判が強まっていった。このような批判も当時の紙芝居屋が立絵から平絵へと移行した理由の一つであると言える。当時の東京市役所社会局はこの社会現象とも言える立絵に対して、次のような調査報告をしている。

今の繪話⁷と違つて、ズブの素人のは到底出来なかつた。(中略)現在、この「立繪」は、全く廢れてしまつたが、只一人、丸山善太郎の子分で大河内元三郎といふお爺さんがいまだに演つてゐる。以上立繪の話は主としてこの大河内氏から伺つたものである。

併しながらこの時代がかつた「立繪」といふものが、何時迄も兒童の心を捉へてゐる筈がない。のみならず昭和になつてからは、「立繪」も從來の歌舞伎風から次第に遠ざかり、インチキ風を帯びるやうになつた。従つて當局の干渉も漸く繁くなつたのである⁸。

東京市社会局が問題視し、また干渉が必要になるほどに立繪は人氣を博していたのである。

二、戦前の街頭紙芝居から教育紙芝居

前述したように、立繪から現代の私たちが知っているような平絵の紙芝居へと移行していった。それは一九三〇年のことであり、貸元やその会員が急激に増加していった。貸元は物語を作り、それに沿った絵を画家に描かせ、紙芝居として会員に貸し出し賃料をとっていた。そして、その会員は貸元から紙芝居を借り、また飴家から飴などの菓子を仕入れて紙芝居を見に来る子どもたちに売っていたのである。貸元はもとも「つとめ會」と「自由會」の二つであつたが、これらが合離するなどし、貸元の数は一急増した。紙芝居業者の数について次のような報告がある。

東京市には約二千人の紙芝居業者が居るのである。之等の業者が今假に三

人の家族を持つてゐるとすれば六千人の人々が、毎日この紙芝居に據つて生活している譯で、警視廳では未だ公然と許可してゐないが、それは既に立派な職業となつて居り、失業対策と云ふ立場から云つても等閑に附し得ざる重大な地位を占めてゐる⁹。

昭和八年九月の調査では東京市内に九十三の貸元があることになつて居り上記の五十三¹⁰が、自から畫工を置いて紙芝居繪を作製して居ります。他の四十ばかりの貸元は、製作しつゝある貸元で使用済みとなつたものを借りうけて營業してゐるのであります。

上掲の表¹¹に示す畫工数は一四三名でありますが、之を事業としないで、内職として居る人が相當多數ありますので正確に何人が紙芝居畫に従事して居るかは不明であります。事業としてゐる者が百五十名あることは明白な事實であります¹²。

紙芝居に関する職に就く者が急増していく一方で、紙芝居は非難的となつてしまふ。紙芝居は主に「男の子向けの冒険活劇」「女の子向けの悲劇で、お涙頂戴もの」「お笑いもの」であつたが、これらの荒唐無稽、卑猥、残忍非道なストーリーが問題視されていたのである。

一九三二年五月八日、朝日新聞は家庭欄の半分ほどを使い、紙芝居を問題視した記事を掲載した。

街の可憐な芸術／紙芝居を問題にする／あれは放置されてよいのか
子供が紙芝居に対する熱心さは非常なもので、従つてその感化力は大きく映画と共に種々の弊害を伴ふものとして識者の問題になりがちです。上演脚本の如き風俗壊乱で上演禁止といふべきものまであつて、前には警視庁当局

でも、脚本の閲覧が問題になった程です。最近ではこの紙芝居を左翼の宣伝に利用するものまで出て来て、子供の教育その他から見て、その成行きにまかせざるわけには行かない有様です¹³。

また、紙芝居屋自身の教養の低さ、紙芝居の内容が低俗さを理由に一九三一年頃に多くの小学校が児童に紙芝居を見ることを禁止した。

紙芝居擁護の声もある一方で、このような紙芝居への批判は大きくなっていった。しかし、紙芝居は当時の子どもたちから絶大な人気を得ており、このような批判によって人気が落ちることはなかった。そのため、教師たちは紙芝居を禁止することを諦め、紙芝居の自主規制を求めるようになった。一九三三年七月十八日には東京市内の小学校で、貸元と教師による「街頭芸術研究会」という座談会が開かれた。そこで教師たちは紙芝居の内容の変更や紙芝居屋自身の高い教養を求めた。

しかし一九三五年にはエロ・グロ作品と言われるような、教師たちが嫌うであろう作品が現れるようになり、一九三三年の座談会はほとんど効果がなかったのだと言える。

一方で今井よね¹⁴は紙芝居に、誰でも簡単にできる「普及性」や「宣伝力」というメリットを見出し、キリスト教伝道の紙芝居「福音紙芝居」を作った¹⁵。そして「紙芝居刊行会」を創設し、印刷紙芝居を出版するようになったのである。

大量発行ができる印刷紙芝居は、その長所を活かし教育を目的とする教育紙芝居として大量に製作されるようになった。

三、国策紙芝居

今井よねが見出した紙芝居の「普及力」「宣伝力」は今井よねの意に反して利用されてしまう。当時戦時下にあった日本では、紙芝居は国民の思想統制のメディアとして利用されたのである。

優秀な軍人が主人公として登場する紙芝居を作り、その主人公を以前の冒険活劇に登場するヒーローと同じように理想的な人物像として描くのである。このような紙芝居を国民に見せていくことで、国民の戦争への意欲や覚悟を高めていったのである。このようにして、教育紙芝居は国策紙芝居として、国民精神総動員運動の一翼を担うことになっていく。現在では、考えられないが当時の日本では、映画、ラジオ、ジャーナリズムなどとならんで、紙芝居はメディアとしての大きな役割を果たしていた。それは都心部だけではなく農村部にも及んでいた。

戦争進行と共に宣伝メディアとしての紙芝居が活用され、無料あるいは安価で購買力のない農村部へ浸透した（後略）。

こなしきれない演壇からのお話に、退屈しどおしてきた村の人たちの間に、この紙芝居が予想外にうけたことはいうまでもない。身近な言葉と絵によるわかり易い説明が村の人たちを心から納得させたのだ。かくて紙芝居一座は間もなく全村の人気をさらってしまった。

官庁、軍部、翼賛団体が注文した内容を、宣伝メディアとして作品化し、大量印刷、大量配布のルートに乗せた。「内容Ⅱ戦争推進、流通Ⅱ配給または公的購入、説明者Ⅱ知識層、場所Ⅱ室内（常会、職場、学校、子ども会）」という体制の中で国策紙芝居は使用された¹⁶。

紙芝居は、もともと子ども向けに作られていたため、非識字層や低学歴層にも受け入れられ易かったのだと考える。また国策紙芝居は政府による検閲

を受けなければならず、国の意図をそのまま国民に伝えるという役割があったため、脚本のアレンジなども禁止されていた。そして、見たい人が自由に見ることのできた以前の街頭紙芝居と異なり、国民は紙芝居を見ることを強要されていたのである。

紙芝居の影響力の大きさは、戦後の東京裁判に日本紙芝居協会の理事であった佐木秋夫が出廷したことからもわかる。紙芝居は国民に戦争協力を促した大きな役割を持っていたとして問題視されたのである。

四、戦後の紙芝居

街頭紙芝居は戦後いち早く復活した。敗戦の年の末には「ともだちの会」という貸元が結成され、次の年には街頭紙芝居は演じられていたのである。戦災や復員などで職を失った人たちが紙芝居屋に転身することもあり、東京の街頭紙芝居は急増し、再び子どもたちの人気を集めた。しかし、戦後の荒廃や虚無感などから紙芝居に大きな刺激が求められるようになり、戦前の街頭紙芝居と同じように、子供へ悪影響があるとして批判され始めた。その一方で紙芝居は教育紙芝居としての注目を高めていく。一九五〇年には「教育紙芝居刊行会」が結成され、翌年「日本紙芝居幻灯」を併設し出版活動が盛んになっていった。

一九五五年頃から始まった高度経済成長やテレビの急速な普及により紙芝居は徐々に衰退していくことになる。当時、電気紙芝居とも呼ばれたテレビは一九六〇年に全国で五〇〇万台を突破する¹⁷。その一方で紙芝居はメディアとしての役割を失っていったのである。

戦後、学校教育教材として活用されていた紙芝居であったが、一九六七年頃から実施された文部省の「第一次教材整備十ヶ年計画」(学校で購入する教

材の基準について記されている）では紙芝居は締め出されることとなる。紙芝居についての記載が削除され、購入すべき教材として扱われなくなったのである。このことによつて学校の紙芝居購入量は激減した。紙芝居出版社の抗議によつて、文部省から紙芝居の購入についての変更通達が出たが、その時には手遅れで、紙芝居出版社は六社から二社へと減ってしまった。その後、紙芝居は学校教育教材としてではなく保育教材として多く出版されるようになったのである。

五、紙芝居のこれから

五・一 現在の紙芝居の活用方法

一九六四年公示の幼稚園教育要領、一九九九年の旧保育指針までは紙芝居についての記述があるが、現在の幼稚園教育要領には絵本についての記述のみで紙芝居についての記述が削除されている。このように、現在では保育の領域においても紙芝居は軽視されるようになってきたのである。ゲームやテレビなど様々な刺激がある現在において、子どもたちはそのような刺激に慣れてしまい、以前にも増して紙芝居への興味が薄れてきているのだと考えられる。

しかし現在、紙芝居は保育教材としてのみではなく、様々な場で活用されている。たとえば、医療現場や老人ホームである。

医療現場では、子どもに対するインフォームド・コンセントに紙芝居が活用されている。専門用語や理解しにくい考え方などについて紙芝居を用いて説明することで、子どもが理解しやすいだけでなく、医師も説明しやすく、両者にメリットのある方法だと考える。

また老人ホームでは、高齢者に紙芝居を見せるだけではなく、高齢者自身に主人公となって紙芝居を演じてもらう、という認知症ケアがされている。一九三〇年に始まった街頭紙芝居をリアルタイムで経験している高齢者たちにとっては、紙芝居は身近で最適な道具であると言えるだろう¹⁸。

このように、紙芝居は以前と比較すれば衰退してきているが、活用できる場を模索し現在も幅広く活用されているのである。

五・二 世界と紙芝居

現在、紙芝居は日本国内だけではなく海外でも演じられている。二〇〇一年十二月に「紙芝居文化の会 The International Kamishibai Association of Japan (略称 IKAJA)」が創立され、世界にむけて紙芝居を広める運動を行っている。フランスやドイツ、スイスなどの図書館で紙芝居文化講座を開き、五年間で会員は十九か国（ベトナム、オランダ、アメリカ、ドイツ、ベルギー、イタリア、デンマーク、フィンランド、イスラエル、ニュージーランド、オーストラリア、タイ、インド、コロンビア、ニカラグア）¹⁹に及び、現在は四十四か国に会員がいる。紙芝居文化の会によると現在、国内で個人会員が五〇六名、団体会員が九団体、海外では個人会員が二五六名、団体会員が十団体で合計七八一名が所属している²⁰。会員には先進資本主義国も途上国もいるが、紙芝居の果たす役割はそれぞれで異なっていると酒井京子氏は述べている。

紙芝居でも、集中したりコミュニケーションしたりするときに、一人一人の考え方や感じ方が基になって、面白いと思ったたりするわけです。

しかし、紙芝居は集団で共感の世界を育てる、人々が一緒に感じる世界を育てることができる、本当に珍しい文化なのです。今の時代は、「個」は「個」

で、もっと育たなくてはならないのだけれど、家族の問題、子どもたちが置かれている状況を考えたときに、もっともっと共感の世界を安心の中で子どもと共に味わい、そういう時間を体験していく、ということが大事な時代ではないかな、と思うのです。（中略）

ドイツやフランスというのは「個」の世界を大事にしてきた国ですよね。（中略）（フランスの図書館の館長が）「その哲学に共感します」と言ってくれました。

途上国では、一人一冊ずつ絵本が買えない国もあるわけですよ。そういう中では、紙芝居というのはやっぱり有効です²¹。

「個」を大切にしてきた先進国では、「場」の共有を通じて「共感」を経験させようという新たな考え方のツールとして紙芝居が注目され始めているのである。そして、途上国では一度に大勢の子どもたちへの教育をすることができ、また文字が読めなくても理解することのできる教育教材として注目されている。

このように紙芝居は世界でも必要とされ、多く演じられているのである。

第二章 紙芝居と児童書

一、松谷みよ子氏について

第二章では松谷みよ子氏が書いた紙芝居と児童書の比較を行う。そこで、松谷みよ子氏自身のことについて以下で触れる。

一・一 松谷みよ子氏の経歴

一九二六年二月十五日～二〇一五年二月二十八日²²。

一九四七年野尻湖に疎開中の坪田譲治を訪ね作品を預ける。(中略)坪田に預けた作品の一つ、「貝になった子供の話」が「童話教室」(一九四八・八)に掲載され、のちの童話集『貝になった子供』(一九五一)としてあかね書房より出版、第一回児童文学者協会新人賞を受賞した。夫の瀬川拓男と民話採訪をするうちに、社会的な目が開かれ、小泉小太郎伝説を題材にした『竜の子太郎』で新しい再創造の文学を作り上げ、第一回講談社児童文学新人賞(一九六〇)、サンケイ児童出版文化賞(一九六一)、国際アンデルセン賞国内賞(一九六二)を受賞した。また幼年童話『ちいさいモモちゃん』(一九六四)では第二回野間児童文学奨励賞を受賞(一九六五)した。『おいでおいで』などの戦争児童文学にも力を入れる一方で現代民話の採集も行っていた²³。夫の瀬川とは劇団「太郎座」を作り、NHKの番組で好評を博していたという²⁴。

一・二 先行研究

松谷みよ子氏について書かれている先行研究を見ていく。一九九五年から二〇一五年までの先行研究のうち、内容を知ることのできたテーマを分類する。

・松谷みよ子氏自身に関すること、生涯について(六本)

・民話研究者、民話文学の作者として(四本)

・『龍の子太郎』について(三本)

・『ちいさいモモちゃん』について(四本)

・児童青少年演劇の側面から(二本)

・絵本表現や言葉について(五本)

・紙芝居での言葉（一本）

松谷みよ子氏自身のことや代表作について、絵本については多くの先行研究が存在する。紙芝居についての論文も一本あり、また他の論文内で紙芝居について少し触れられていることもある。しかし、児童書の本文と紙芝居の脚本を比較を行っている先行研究は見られなかった。

また、松谷みよ子氏は二〇一五年二月二十八日に亡くなったばかりであるため、今後より多くの研究が発表されるのではないかと考える。

二、研究方法

松谷みよ子氏脚本の紙芝居一覧を見つけることができなかったため、一覧表の作成を行った。「国立国会図書館サーチ」(NDL Search)を使用し松谷みよ子氏の紙芝居を探した。しかし、それだけでは不十分であったため紙芝居の出版社である教育画劇のホームページ²⁵、童心社のホームページ²⁶、絵本ナビ（絵本や紙芝居の情報、サービス、商品の提供を行っている）²⁷でも検索をした。

三、一覧表

以下で調査結果を表にしてまとめる。複数のシリーズで出版されているものは、その全てを記載しそれぞれのシリーズ名の下に出版年月日を記載した。また出版年月日の詳細が分からなかったものもあるため、出版年のみのもの、出版年月のみのものもある。シリーズ名が長いものは次のように略して記載する。

・松谷みよ子むかしむかし↓松谷みよ子むかし

- ・ 松谷みよ子民話珠玉選 第Ⅱ集↓松谷みよ子民話珠玉選2
- ・ 童心社のかみしばい美しい心シリーズ↓美しい心シリーズ
- ・ 紙芝居セクションむかしむかし↓セクションむかし
- ・ 日本と世界の昔話コース↓日本と世界の昔話
- ・ 童心社の家庭版かみしばい↓家庭版かみしばい
- ・ 童心社のかみしばい よいこの十二月↓よいこの十二月
- ・ 童心社のかみしばいげんきなかまシリーズ↓げんきなかまシリーズ
- ・ 松谷みよ子 モモちゃんのおはなし↓モモちゃんのおはなし
- ・ 童心社のかみしばい ゆたかなこころシリーズ↓ゆたかなこころシリーズ
- ・ おひさまこんにちは 年少向け↓おひさまこんにちは
- ・ 松谷みよ子のかわいいおはなし↓かわいいおはなし
- ・ 松谷みよ子おはなし珠玉選↓おはなし珠玉選
- ・ 2・3歳児かみしばい こぐまシリーズ↓こぐまシリーズ

そして、紙芝居と同じ題材の児童書が存在し、尚且つその紙芝居と児童書が国立国会図書館国際子ども図書館に所蔵されている場合は「所蔵」の欄に○をつけて示した。

四、紙芝居と児童書の比較

松谷みよ子氏脚本の紙芝居、松谷みよ子氏作の児童書の比較を行っていく。
比較に使用する児童書、紙芝居は以下の条件で選んだ。

- ・松谷みよ子氏の脚本の紙芝居であること。原作が松谷みよ子氏のものは、松谷みよ子氏の意図しない脚本になっている可能性があるため除外した。
- ・国立国会図書館国際子ども図書館に所蔵されている紙芝居、児童書であること。
- ・題名は異なっていたとしても、同じ題材で書いている紙芝居、児童書であること。

この三点を満たすものは十一あった。

まえがみたろう（前編後編）

うりこひめとあまのじゃく

さるとかに

たべられたやまんば

したきりすずめ

はないっぱいになあれ

にげだしたにんじんさん

はのいたいモモちゃん

六月のむすこ

ねないこだあれ

ちようちよホテル

(すべて紙芝居での題名)

以上の全十一作品を「民話作品」「ちいさいモモちゃんシリーズ作品」「赤ちゃん向け作品」に分類し、両者の異同について指摘していく。また、その異同の理由について考察することができたものは、それも併せて述べていく。以下で、それぞれの作品の最初に示す作品名は紙芝居のものとする。また、比較したい箇所を明確にするため、傍線を加えた。本文の太字などは、原文通りに記載している。

四・一 民話作品

① 『うりこひめとあまのじゃく』

○紙芝居『うりこひめとあまのじゃく』脚本 松谷みよ子・画 梶山俊夫、童心社、一九七三・三・一

○児童書『瓜子姫とあまのじゃく 新装版 日本の昔話③24話』作 松谷みよ子・絵 ささめやゆき、講談社、二〇〇八・十二・一

へあまのじゃくが、うりこひめをそそのかして家から連れ出そうとするシン

紙芝居

「(前略) ぞうり はいて いこ」

「ぞうり、はけば、ぽんぽん なるから いやー。」

「じゃあ げた はいて いこ」

「げた はけば、からんこからんこ なるから いやー。」

児童書

「(前略) げたはいていくべえ」

「だども、げたはいていけば、からんこからんこ鳴るもの」

「だば、ぞうりはいていけばいい。」

「ぞうりはいていけば、ぽんぽん鳴るもの。」

・児童書には方言が用いられており、民話の雰囲気により強くなっている。

へあまのじゃくがうりこひめをおけに入れておぶって走るシーンへ

紙芝居

ほうい　　ほいほい

ほうい　　ほいほい

ももの　　はたけの

ももの　　みは

かぜ　　ふきや　　ざらん

かぜ　　ふきや　　ざらん

ほほーい

あまのじゃくは　　ごうごう　　はしって

児童書

記述無

・児童書ではこのシーンの描写がないのにもかかわらず、紙芝居では、あまのじゃくの走る様子が丸々一枚も使って描かれている。

・紙芝居に特徴的である、歌のようなリズムのよい文章になっている。

へうりこひめに化けたあまのじゃくが正体を見破られ、かや原を引きずり回されるシーンへ

紙芝居

あまのじゃくを　　かやはらじゅう　　ひきずりまわした。

かやの　　ねもとは、それで、すっかり　　赤く　　なった。

児童書

あまのじゃくをかや原じゅう、ひきまわした。かやの根元は、それからあまのじゃくの血で赤いのだと。

・児童書では、かやの根元が赤い理由は「あまのじゃくの血である」と明記されている。しかし、紙芝居では「それで」赤くなったと記述されており、あまのじゃくをひきずりまわした際の血であるということとは明記されていない。「血」についての描写は子どもたちにとって刺激が強いと判断されたのではないか。

② 『さるとかに』

○紙芝居『さるとかに』 脚本 松谷みよ子・画 安泰、童心社、一九九八・十一・二五

○児童書『さるかに』 文 松谷みよ子・絵 瀬川康男、講談社、一九七〇・十二・二六

へかにが育てたかきをさるが横取りし、かにがさるに抗議するシーン

紙芝居

さる

「(前略) みんな おらの もんだ。

あおい ところでも くれて やらあ。」

いうなり さるどんは、

かに めがけて、

―さつとぬきながら―

ぴしっ!

かきの　みを　たたきつけたって。

児童書

「ふん、そうか。なら、一つ　やるわ。」

と　いうなり、まだ　あおい　かきの　実を

ひきちぎり、かに　めがけて　たたきつけました。

〈子がにたちが、仲間と協力してさるに仕返しをするシーン〉

紙芝居

―さつとぬきながら―

ばあーん

ぼっぽと　やけた　つぶっくりが、

さるの　しりに　とびついた。

児童書

そのとたん、

ばあん

まっかに　やけた

つぶっくりが、さるの

しりに　とびつきました。

紙芝居

まちかまえて　いた　はちは、

―さつとぬきながら―

ぶうーん

ずぶり!

さるの　かたに　はりを　さした。

児童書

くまんばちが、ぶうんと まいあがり、

さるの かたに、

ずぶり

はりを さしました。

紙芝居

その とたん、

―はやくぬきながら―

ずでーん

やねから うすが おちて きて、

児童書

ずでえん

やねの 上から、うすが とびおりました。

・児童書に比べ紙芝居では擬音語が多く使用され、また強調されている。

へうすがさるの上に飛び降りたあとのシーンへ

紙芝居

さるは ひらたく のびて

しまったとき。

それから、 みんな たすけあつて、

しあわせに くらしただって。

児童書

さるは、ひらたく のびて しまいましたとき

・「しあわせに くらしただって」という一文を加えることによって、紙芝

居の方が子どもにとって、分りやすい、納得しやすい結末（仲直りをしてハッピーエンド）になっている。

（子がにの仲間について）

紙芝居

つぶっくり、はち、うす

児童書

つぶっくり、くまんばち、うす、うしのくそ

・児童書では「うしのくそ」が登場し、さるの家の戸口にすわって、慌てて外に飛び出そうとするさるを滑って転ばせる役割をしているが、紙芝居には登場していない。

『さるかに合戦』における「うしのくそ」の登場について、勝又基氏は以下のように述べている。

上に見たような傾向²⁸は、昭和45年（1970）あたりを境にして、大きく動いて行きます。（中略）栗↓蜂↓臼という本来のシンプルなパターンも、だんだんと数を減らして行きます。これに対して、牛の糞が登場するパターンが大変数を増やして行きます。

1990年代以降になると、ほぼ全て牛の糞が出るパターンです。【栗↓蜂↓臼】というパターンは、見た中では2つしかありませんでした。（中略）平成、つまり1990年代に入ると、栗↓蜂↓臼、というパターンもほとんどなくなり、牛の糞は完全なレギュラーに定着することになります²⁹。

「うしのくそ」が登場しないことは新しいパターンではなく、以前からあったのである。

また、この児童書は一九七〇年十二月に発行されおり勝又氏が述べているように「うしのくそ」が登場するパターンが増えていく傾向に乗っ取ったものであると言える。

一方、紙芝居は一九九八年十一月に発行されているが、勝又氏の意見とは異なり、「うしのくそ」は登場していない。勝又氏の調査が絵本や教科書を対象としているため、紙芝居について必ずしも当てはめることができるわけではないが、この紙芝居の脚本は珍しいものであると言えるだろう。

紙芝居で「うしのくそ」が登場しない理由についての先行研究がないか、複数の文献に当たったが見つけることができなかった。しかし、私はその理由として、その単語自体が子どもたちの注目を過度に集めてしまうこと、絵で表現することが難しいことの二点があると考えた。

「うしのくそ」は汚く臭いというイメージがあり、子どもたちがそれを笑いのタネにすることは容易に想像できる。児童書は子ども自身が一人で読んだり、大人が一对一で読み聞かせをしたりすることが多い。しかし、紙芝居の場合は一度に大勢の子どもを相手に演じるのである。その際に、前述したように子どもが笑い出してしまったら、紙芝居を進められなくなってしまう。一对一であれば、一人ひとりに時間をかけることができるが、大勢を相手にする場合はそれができない。そのような点を配慮したのではないだろうか。そして、「うしのくそ」を絵で表現するのは大変難しいと考える。児童書では実際に「うしのくそ」の絵が描かれているのだが、説明されないとわからないようなデフォルメされた絵であった。このように「うしのくそ」を登場させることで発生するデメリットを考え、また登場しないパターンも以前から存在したということを踏まえ、登場させることをやめたのではないかと考える。

③ 『したきりすずめ』

○紙芝居『したきりすずめ』脚本 松谷みよ子・画 堀内誠一、*Kamishibai for Kids*（原本の出版社 童心社）、二〇〇一（国立国会図書館国際子ども図書館に日本語の紙芝居が所蔵されていなかったため、英文併記の紙芝居を使用した。）

○児童書『したきりすずめ』文 松谷みよ子・絵 片山健、童心社、二〇〇六・十二

へすずめが勝手におじいさんの弁当を食べて昼寝をしていたところをおじいさんが発見するシーンへ

紙芝居

ひるに なったので さあ、めしに すべと、

べんとうを とりを いくと、すずめが

べんとうを くって

そのまんま ねておった。

じいは あきれて

「この しょうわるめ。」

と どなったが、すずめは まだ くうくう

ねておった。

じいは このねぼすけめと、すずめをふところに いれて かえつてきた。

児童書

さて、ひるめしにすべと おもったら、

「あれえ、こりや どういうこった」

いちわの　すずめが、べんとうくって
くう　くう　ねておった。
じいさま　あきれてねえ、
すずめを　ふところに　いれて、
つれてかえったきたと。

・紙芝居ではおじいさんは呆れて怒鳴って怒っている。しかし児童書ではあ
きた描写のみである。このことについて複数の文献にあたってみたが、考
察の手がかりとなるものを見つけることはできなかった。

へおばあさんによつて家から追い出されてしまったすずめをおじいさんが探
しているシーン

紙芝居

したきりすずめどんの　おやどは

どこで　ござるか　ちよっ　ちよっ

ちよんちよんすずめどんの　おやどは

どこで　ござるか　ちよっ　ちよっ

児童書

したきりすずめ

おちよんすずめ

どつちやいつた

こい　こい　こい

・児童書には方言が用いられており、民話の雰囲気により強くなっている。
・紙芝居でも児童書でもリズムの良い文になっている。特に紙芝居では「お
やどは　どこで　ござるか　ちよっ　ちよっ」というリズムの良い文がくり
返し使われている。くり返して使うことで聴き手を引き込む作用がより強く

なっていると考える。

へおじいさんがすずめの居場所へ行くための道を尋ねているシーン（その後おばあさんも宝物欲しさに、すずめのところへ行くが、その際も以下と同じような条件をつきつけられている。）

紙芝居

（道を尋ねる相手：うまあらいどん、うしあらいどん）

うまあらいどん

「うまの あらいじる 七おけ
のまつしやい。」

そうしたら おしえて しんぜるわい。」

うしあらいどん

「それなら、うしの あらいじる

七おけ のまつしやい。」

児童書

（道を尋ねる相手：こどもたち、うしあらいどん）

こどもたち

「つちの だんご、

ななつ くうたら おしえてやる」

うしあらいどん

「うしのあらいじる、ななおけ のまつしやい。」

そうしたら おしえてしんぜるわい。」

・紙芝居においておじいさんが道を尋ねる相手は「うまあらいどん」と「うしあらいどん」であるが、児童書においては「こどもたち」と「うしあらいどん」である。どちらかが、より残酷な条件であると捉えられたのではない

か、元となった民話に沿った内容かどうかの違いではないか、という仮説を立て調査したが、手掛かりとなる文献を見つけることはできなかった。

へおじいさんがすずめに接待してもらうシーンへ

紙芝居

したきりすずめは、赤い おぜんに

赤い おわん。白い ままに おさかな

そえて、たあんと ごちそうして くれたと。

児童書

たんと ごちそうしてくれたと。

・紙芝居も児童書も文章だけではなく絵でも表現されてはいるのだが、紙芝居の方が具体的に描写しており、より場景を想像しやすい。

へすずめに宝物をもらったおじいさんをおばあさんが羨ましがるシーンへ

紙芝居

ばあ

「ええい くやしい くやしい。

おらもいく、これから すずめの

ところに いって、たからもの

もろうて くる。」

じい

「なに いうか、これだけ あれば、

たくさんじゃろが。」

児童書

さあ ばあさまは、じっとしてられない。

・紙芝居ではおばあさんのセリフなどがあり、より芝居的である。おじいさんが止めようとするのを振り切ってすずめのところへ行くシーンがあることで、おばあさんの強欲さが際立っている。

④ 『たべられたやまんば』

○紙芝居『たべられたやまんば』脚本 松谷みよ子・画 二俣英五郎、童心社、一九七〇・一〇・一

○児童書『たべられた山んば』松谷みよ子、全国学校図書館協議会、一九六五・七・二五

〈物語の導入部分〉

紙芝居

むかし むかし、山のおてらに
おしこうさんと こぞうが
すんでいました。

ある 日、こぞうが

山へ くりひろいに いくと、

ひとりの おばあさんが

やぶの 中から できました。

「これ、こぞう、

おれは おまえの おばだぞい。

おまえの おとうの、ねえさんの、

よめさんに いったさきの

おばさんの いもうとだぞい。」

「むつかしいんだな。」

こぞうは たまげて いいました。

「むつかしゅうても やさしゅうても、

おばさんじゃ。ええか、こんばん

くりこ いっぱい にて おくで、

あそびに こいよ。」

おばあさんは そう いうと、

にかにかとわらって、

やぶの中に きえました。

児童書

ずうつとむかし。

山のお寺に、おしょうさんとこんぞがおったそうな。ある日のこと、こんぞは、山へくりひろいにでかけたが、いけばいくほど、でつかいくりがいっぱいおちていたと。こんぞは、むちゅうになって、なんぼでもひろっていくうちに、ふときがついたら、いままで、きいたこともない、ふかい山おくへきていたそうな。

すると、がさがさとやぶがなって、ひとりのばあさまが、やぶの中から出てきた。ばあさまは、こんぞのそばによると、にかにかつとわらって、こういったそうな。

「こんぞや、おれはおまえのおとうの、あねさんのよめにいったさきの、おつかさんのいもうとにあたるもんだぞ。ほんげ、くりをいっぺにておくで、おれの家へあそびにこい。いいな。」

こんぞはたまげて、おとうの、あねさんの、よめにいったさきのかかぞえてみたけれども、よくわからん。なんでも、おばさんにあたるもんだというので、それならいくからと、やくそくしたそうな。ばあさまは、また、

にかにかつとわらって、いってしまっただ。

・紙芝居に比べ児童書では方言が多く、また子どもが聞いても絵がないと理解できないような方言（「こんぞ」など）が用いられており、民話の雰囲気により強くなっている。

へこぞうがおばあさんの家でくりを食べて寝ようとしていたシーンへ

紙芝居

すると、ひるまのおばあさんが いろりのそばで、

こんぞあ ねたか につかにか

こんぞあ ねたか につかにか

と いいながら、 いとぐるまを きりきりと まわして いました。

児童書

すると、ひるまのばあさまが、

こんぞあ ねたか につかにか

こんぞあ ねたか につかにか

といいながら、かみをふりかぶり³⁰、まっかな口をあけて、おはぐろをつけていたそう³¹な。

・児童書では、昔の風習である「おはぐろ」や「かみをふりかぶり」というあまり耳にしたことのない言葉が使われており、子どもにとって理解しにくいと考えられる。紙芝居と異なり、一対一で使うことの多い児童書だからこそ、読みながら昔の風習などを子どもに教えることができ、効果的であると考える。

へこぞうがやまんばから逃げる際に、おしろうさんからもらったお札に川をだしてもらおうシーンへ

紙芝居

大きな川でろ

児童書

大きな川ではれ

・児童書の「はれ」は「はる」の命令語で、「尊敬の意を表す³¹」言葉である。おしろうさんからもらったありがたいお札であるため、児童書では敬意を表した表現になっていると考えられる。紙芝居では、そのことよりも理解しやすさを優先したのではないだろうか。

〈前の記述の続きで、川がでたシーン〉

紙芝居

ごーごーごーつ

みるみる 大川が あらわれて

おとを たてて

ながれだしました。

児童書

すると、おおきなかわが、みるみるあらわれて、なみをたててながれたそうな。

・紙芝居では擬音語が使用されており、より場景を想像しやすい

へこぞうが寺まで逃げ帰り、追ってきたやまんばが寺の戸をたたくシーン

紙芝居

こんぞは ころがるように

おてらの もんの まえに ついて

どんどん どん どんどんどん

児童書

こんぞはようよう寺について、どんどん戸をたたいたそうな

・児童書で用いられている「ようよう」は「何らかの制約や困難があったために成立しにくかった行為・状態がどうにか成り立つさまを表わす語。かろうじて。やつと。どうにかして。³²」という意味である。これは古語の一つであり、子どもたちにとっては理解しにくいものである。

・やまんばが寺の戸を叩く音の描写が異なっている。同じ「どん」という擬音語を用いているが、紙芝居の描写の方がリズムの良い文になっている。

〈寺に入れたやまんばとおしろうさんが話をしているシーン〉

紙芝居

おしろう

「のう、ばんば、やまんばは

なににでも ばけられると いうが、

ほんとうか」

やまんば

「おおさ、なににでも

ばけられるぞ。

ばけて みようか」

児童書

おしろうさんが（中略）「ばんば、おれとばけくらべをしないか」というた
そうな

・紙芝居では、やまんばを化けさせる過程の会話が描写されている。「やまんばは化けることができる」という前提を聴き手に理解させた上で物語を進めているためわかりやすい。

〈最後にやまんばが化けたもの〉

紙芝居

まめ

児童書

なつとう

・「まめ」も「なつとう」も豆であるが、なぜわざわざ書き分けたのだろうか。また、紙芝居の絵からいうと「まめ」は黒豆であるように見える。

私はまず納豆を餅につけて食べることはあまりポピュラーではないと考え、限られた地域での食べ方なのではないかと考えた。そして、地域によっては「納豆餅」という食べ方があることがわかった。京都では、正月三ヶ日に納豆もち（大きな舌型ののしもちを焼き、きな粉をまぶし納豆をはさむ³³）を食べる習慣があり³⁴、また東北では納豆和えにする食べ方がある³⁵。

『たべられたやまんば』の元となった『三枚のおふだ』という民話は東北地方のものである³⁶と言われているため、後者の東北での食べ方が、該当するのではないかと考える。

児童書では民話の雰囲気を残すため、全国共通ではない「なつとう」をもちにつけるという食べ方を描いたのではないだろうか。そして紙芝居では、どの地域の子どもも円滑に理解することができるよう「まめ」という言葉を選んだのではないだろうかと考える。

⑤ 『まえがみたらう』

○紙芝居『まえがみたらう』前・後編、脚本 松谷みよ子・画 箕田源二郎、童心社、一九七一・一・一（前編）一九七一・二・一（後編）

○児童書『松谷みよ子全集：8 まえがみ太郎』松谷みよ子、講談社、一九七二・三・八

・児童書の全一六七ページの九三ページまでが紙芝居の前編、それ以降が後編の内容と合致している。紙芝居は前後編それぞれ十二場面で構成されている。紙芝居が三二場面あるとはいえ、一六七ページもある児童書と比べると量に差がありすぎるため、比較するのが難しかった。

へどうどの山についての説明シーンへ

紙芝居

どうどの 山には、おそろしい まものが
すんで いて、ときどき

ギヤーツ

と、いう さけびが きこえ、

ドドドドド ゴオーツ

と、むらじゅうが ぐらぐら ゆれるのです。

児童書

どうどの山という、峰が九十九もあるけわしい山から、ときどき、ひき
さかれるようなさけび声がきこえてくる。そのたびに村じゅうがぐらぐら
とゆれ、夜ならば、山の上に青く、あるときはむらさきのあやしい光がゆ
らめいて、くらい空をそめた。

・児童書では「ひきさかれるような」と記述されている箇所を紙芝居では「ギ
ヤーツ」という擬音語を用いている。また村がゆれる様子も擬音語を用
いて描いている。

へ飛び立つことのできなかった火の鳥に、苦勞して手に入れた「いのちの水」を渡すシーン

紙芝居

たろう

「火のとり……、いのちの水を

もって きたよ。

これで おまえは とびたてる……」

（中略）

火のとり

「たろう。はやく 山を おりて くれ。

そして、わしが とびたつ すがたを

みて くれ！」

（中略）

火のとり

「おーい、まえがみたろうようー

どうどの 山 ぜんぶに こがねが

うまって いる。

その こがねを、そっくりおまえに

やるぞ！」

児童書

「火の鳥、おら、わすれていた。お正月さんはこういったんだよ。火の鳥は、いのちの水があっても、それだけではとびたつことができない。火の鳥にはすてなくてはならないものがある。それをすてれば、とぶことはできるって。火の鳥、それがなにか、おまえにはわかるかい？」（中略）「わしのからだの下には、たくさんのこがねがかくされているのだ。」「だが、

わしにはできん。こがねをすてることはできぬ。」「そうかなあ、そんなもの、すてちまえばいいじゃないか。空をとびまわるほうが、ずっといいじゃないか。」（中略）「おうい、まえがみ太郎よう、わしのこがねは、そっくりおまえにやる。おらのようにかかえこまずに、いいことにつかえよう。」

・ストーリーの違い

紙芝居では、火の鳥にいのちの水を渡すとすぐに飛び立つことができるようになり、飛び立つことのできた火の鳥は山に隠したこがねの存在を初めて明かし、それをまえがみたらうに譲ると言った。

児童書では、火の鳥にいのちの水を渡してもすぐに飛び立つことはできなかった。そしてまえがみたらうに尋ねられ、火の鳥は山に隠したこがねの存在を明らかにする。なかなかこがねを手放す決心がつかなかった火の鳥であるが、最終的にはこがねを手放し「いいことにつかってくれ」とまえがみたらうにこがねを譲った。

いのちの水を手にするまでの冒険シーンも重要であるが最も重要なのは火の鳥がこがねを手放し自由を手に入れたことなのではないかと考える。子どもにとってはやや難しい内容であるかもしれないが、そのシーンが紙芝居では削除されてしまっていることは不思議に思った。前述した通り児童書は一六七ページもあり、小学校の中学年以上向けであると考えられる。そのため、やや難しい内容でも理解してもらえたと考えたのではないだろうか。紙芝居では児童書よりも内容を減らさなければならず、対象年齢が低い紙芝居ではこのシーンを伝えることが難しいと判断され、削除されたのではないかと考える。

○紙芝居『六月のむすこ』脚本・松谷みよ子・画 石倉欣二、童心社、一九九八・八・二五

○児童書『むかしむかし』⑨ したきりすずめ 六月のむすこ ほか』文 松谷みよ子・絵 土橋とし子、講談社、一九九八・三・二〇

へ継母が血のつながっていない姉に、冬であるにもかかわらずいちごをとつてこいと命令するシーンへ

紙芝居

ははおや

「なに やっているんだい。

かわいい いもうとが、いちご

くいてえって いつてるだ。

とつとと 山へ いけ。

いちご とつてこい！」

児童書

「なに してるだい。かわいい いもうとが、いちごくいてえと いつてるに、ぼけーと 立っていねえで、山へ いつて さがしてこい。」

・児童書の方が方言が多少多く使われている。しかし、大きな異同は見られなかった。

四・二 ちいさモモチゃんシリーズ作品

① 『ちようちよホテル』

○紙芝居『ちようちよホテル』、脚本 松谷みよ子・画 梅田俊作、童心社、一九九二・四・一

○児童書『松谷みよ子おはなし集1』作 松谷みよ子・絵 和歌山静子、ポ

へ熱があるアカネちゃんが外に遊びに行きたいとママに駄々をこねるシーン

紙芝居

アカネちゃん

「おんも いくのよう。」

ちようちよさん いくのよう。」

ってなきました。

ママ

「はいはい、いきましようね。」

びようきが なおったら、

ちようちよさんと あそびに

はらっぱへ いきましようねえ。」

ママが いいました。

児童書

「おんもいくのよう、タツタはいて、いくのよう、ちようちよさん、いくのよう。」

そういつて、なきました。

タツタというのは、くつしたことです。ママは、

「はいはい、いきましようねえ、キイキがなおったら、タツタはいて、いきましようね。ちようちよさんと遊びに、いきましようね。それまでねんねよ。」

そう、アカネちゃんにいいました。

・児童書では「タツタ」「キイキ」という幼児語が使用されている。

へタツタちゃんとタアタちゃん（アカネちゃんのなかよしの靴下のふたこの兄弟）がアカネちゃんのためにはらっぱへ行くシーン～

紙芝居

よちよち よちよち

いそげ いそげ

はらっぱへ でかけました。

あぶない！

—さつとぬきながら—

ビューン

バイクだ！

児童書

記述無

・児童書にはないシーンが紙芝居にはあり、「あぶない！ ビューン バイクだ！」というように芝居のような描き方をしている。

へたくさんのちようちよが、タツタちゃんとタアタちゃんのちようちよホテルに来てくれ、おうちに連れて帰るシーン～

紙芝居

タツタちゃんと タアタちゃんは、

おおよろこびで

アカネちゃんの ところに

かえっていききました。

アカネちゃん

「ちようちよ きた。」

ちようちよ ちようちよ。」

ちいさい アカネちゃんは、

てを のばして、きやつきやつと

わらいました。

児童書

タツタちゃんと、タアタちゃんは、ちようちよさんたちの目をさまさないように、くすぐったいのをがまんしながら、おうちへかえりました。まあ、アカネちゃんが、どんなによろこぶことでしょうね。

くつしたのタツタちゃんとタアタちゃんは、ちようちよをとりにつたお話は、これでおしまい。

・紙芝居ではアカネちゃんが喜んだことが明記されているが、児童書では「どんなによろこぶことでしょうね」とはつきりとした結末が描かれていない。

② 『にげだしたにんじんさん』

○紙芝居『にげだしたにんじんさん』脚本 松谷みよ子・画 鈴木未央子、童心社、一九六六・九・一

○児童書『ちいさいモモちゃん』「逃げだした ニンジンさん」松谷みよ子、講談社、二〇一一・十一・十五

〈逃げてしまったにんじんさんを探しているシーン〉

紙芝居

ねこの プーだけは、

「ぼく、にんじんなんて だいきらい。

あかい きんぎよなら

だいすきだけどさ。(後略)」

児童書

ところが、プーだけは、別だったんですね。

「(前略)ぼくは、ニンジンなんてだいきらい。そりや赤くて、かわいいけどさ。ぼくが赤くて、すきなもんといつたら、キンギョだよ。しつぽふつてさ。きれいで、おまけにおいしいもん。それを、ぱつとつかまえるとき
の、そのきもち……」

・児童書ではプーがキンギョを好きな理由を述べている。キンギョを食べたらかわいそうだと感じる子どもに配慮して、紙芝居では削除したのではないか。

〈物語の最後〉

紙芝居

ももちゃん

「にんじんちゃん、にげちゃ だめよ。

あたし、にんじんちゃんも すき。」

ももちゃんが いいました。

児童書

記述無

・モモちゃんが「にんじんちゃんはすきじゃない」と言ったせいでにんじんさんは逃げてしまったのだが、紙芝居では、そのにんじんとモモちゃんが仲直りをするので、子どもにとって、分りやすい結末(ハッピーエンド)になっている。

③ 『はのいたいモモちゃん』

○紙芝居『はのいたいモモちゃん』脚本 松谷みよ子・画 鈴木未央子、童心社、一九七二・六・一

○児童書『松谷みよ子全集 13 モモちゃんとプー』松谷みよ子、鎌倉書房、一九六五・五

〈ネコのプーの抜けた歯をママが投げるシーン〉

紙芝居

ママは、はをなげました。

ちいさな、しろい はは、びゅーつと、とんで いきました。

児童書

ママはプーの歯を、空たかくなげました。

・紙芝居では、より具体的に、また擬音語を用いて描かれている。

〈歯を食べてしまう悪いこびと（虫歯）についてママがモモちゃんに話すシ

ーン〉

紙芝居

ママ

「トンテンカン トンテンカン

ジャムつきの はは、おいしいな。

トンテンカン トンテンカン

キラメルつきはも おいしいな。

ムシヤムシヤ ムシヤ

ちいさな トンカチで、 はを たたいて

たべて しまうのよ。

（後略）

児童書

——あーあ、あまいおかしを、たくさんたべてくれないかな。チョコレートとかさ、あめとかさ、キャラメルとかさ、そうして歯をみがかないでねてくれば、しめたもんだ。そういうものがくつついた歯は、やわらかになるからねえ、そこをトンカンたたいて、たべれるのに——。

こびとはいつもそういうんです。

・児童書では文で説明しているところを紙芝居では歌にして表現している。

紙芝居

へモモちゃんが歯医者に向かっているシーンへ

モモちゃん

「わるい コビト たいじしちゃえ

ガーガーガー ガーガーガー

わるい コビト やっつけろ。」

モモちゃんは うたいながら いきました。

児童書

記述無

・紙芝居では児童書にないシーンも歌で表現している。

四・三 赤ちゃん向け作品

① 『ねないこだあれ』

○紙芝居『ねないこだあれ』脚本 松谷みよ子・画 村上康成、童心社、二

〇〇〇・四・一

○児童書『ねないこ　だあれ（松谷みよ子／ふうちゃんえほん1）』、文松
谷みよ子・絵　さとうわきこ、講談社、一九八二・七・二〇

〈最後のシーン〉

紙芝居

みんなで　ねるの

おおかみだって　いっしょだもん！

ねんねんよ

おころりよって

うたうんだよね

おかあさん

児童書

みんなで　ねるの

おおかみだって

いっしょだもん！

・紙芝居では語りかけるような文で物語が終わっている。

②『花いっばいになあれ』

○紙芝居『はないっばいになあれ』脚本　松谷みよ子・画　長野ヒデ子、童
心社、一九九八・四・一

○児童書『花いっばいになあれ』さく　松谷みよ子・絵　司修、大日本図書、
一九八二・九・三〇

へ子どもたちが風船に種をつけて飛ばすシーン〉

紙芝居

○○ようちほいく³⁷えんの こどもが、
ふうせんに おはなの たねを つけて
とばしました。

児童書

学校の 子どもたちが、ふうせんに お花の たねを つけて、
とばしました。

・○○に自由に名前を入れて演じることができるため、より子どもたちの興味を引くことができる。

〈風船が飛んでいくシーン〉

紙芝居

ふうせんは、
ふわふわ とんで いきました。

あかい ふうせん、あおい ふうせん、
きいろい ふうせん。

あとに なり、さきに なり、
ふわふわ とんで いきました。

児童書

ふうせんは、ふわふわ とんで いきました。
・紙芝居のほうが、ふうせんが飛んでいく様子を細かく描写しており
想像しやすい

〈赤い花が枯れてしまうシーン〉

紙芝居

あかい はなは、ちいちゃく ちいちゃく

しぼんで、くさの　うえに
くたんと　たおれて　いました。

児童書

赤い　花は、小さく　小さく　しぼんで、
草の　上に　くたんと　たおれて　いました。

・紙芝居では「ちいちゃく　ちいちゃく」と幼児語が用いられている。

〈花が枯れてしまいコンが泣き出すシーン〉

紙芝居

コン

「せっかく　つちの　なかに　うめて

あげたのに、おみずだって　あげたのに、

どうして　しおれちゃったんだよう。

ああん、ああん　あーん。」

コンは　わあわあ　なきました。

児童書

コンは、わあわあ　なきました。

・紙芝居では、コンが泣き出す理由をコン自身が語っており、いきなり泣いてしまう児童書よりもわかりやすくなっている。

四・四　比較結果

「民話作品」「ちいさいモモちゃんシリーズ作品」「赤ちゃん向け作品」に分類し比較した結果、わかったことをまとめる。もちろん、以下に書くことが全ての紙芝居や児童書に当てはまるわけではないが、複数の作品に当ては

まることから、それぞれの特徴として挙げていく。

○民話作品

- ・児童書では、方言がより多く使われていたり、昔の風習などが描かれていたり、民話の雰囲気が強に残っている。

- ・紙芝居では、歌のようなリズムの良い文章が多く用いられている。

- ・紙芝居では、子どもにとっては刺激が強い、理解しにくい、と考えられる描写が避けられている。

- ・紙芝居では、擬音語が多く用いられている。

- ・紙芝居では、子どもにとって納得しやすいような結末（ハッピーエンド）になっている。

- ・紙芝居では、具体的な描写がされていることが多い。

- ・紙芝居では、芝居的な描写が多い。

○ちいさいモモちゃんシリーズ作品

- ・児童書では、音声として聞いただけではわからないような幼児語が使われている。

- ・紙芝居では、子どもにとって納得しやすいような結末（ハッピーエンド）になっている。

- ・紙芝居では、子どもにとっては刺激が強い、理解しにくい、と考えられる描写が避けられている。

- ・紙芝居では、擬音語が多く用いられている。

- ・紙芝居では、具体的な描写がされていることが多い。

○赤ちゃん向け作品

- ・紙芝居では、子どもに語りかけるような表現が多い。
- ・紙芝居では、結末や過程などが明確に描かれている。
- ・紙芝居では、具体的な描写がされていることが多い。
- ・紙芝居では、芝居的な描写が多い。
- ・ちいさいモモちゃんシリーズ作品の特徴とは異なり、紙芝居では、わかりやすい幼児語が使われている。

共通して言えることは「紙芝居は多くの子どもにとって、わかりやすく面白いもの」として作られているということである。歌やリズムの良い文章、擬音語などを多く用いることで子どもをひきつけている。また子どもに適した物語になるよう具体的な描写をしたり、刺激的な描写を排除するなどの配慮をしているのである。以上のことが紙芝居の特徴であり魅力でもある。

松谷みよ子氏は劇団員の経験を持っており、また民話研究者でもある。そのことが、民話作品での民話的要素や紙芝居における芝居的な要素に活かされているのではないだろうか。この点は、松谷みよ子氏の作品であるからこそ魅力なのではないかと考える。

おわりに

酒井京子氏は「紙芝居は今まで絵本より一つ下のもの、というふうに思われていたので、作品についての論争がほとんどない³⁸。」と述べている。たしかに、この論文を書くための参考資料を探していた際も、紙芝居を文学作品として論じているものを見つけることはなかなか難しかった。紙芝居は文学作品というよりも「保育教材」や「メディアの歴史の一つ」として考えら

れていることが多いように感じた。しかし、私は紙芝居には長い歴史があり、紙芝居だからこその魅力があるのだと考えている。

児童書と紙芝居を比べてどちらが優れているかは言えないが、酒井京子氏が述べているように「紙芝居は絵本より一つ下のもの」では決してない。紙芝居と児童書それぞれに特徴のある魅力が存在すると考える。たとえば、紙芝居には必ず演じ手がいる。そのため、紙芝居では視覚だけではなく、聴覚で情報を得る文学作品であると言える。そして紙芝居はコミュニケーションでもある。酒井京子氏が「これから紙芝居をはじめね、と言っただけで、もう既に演じ手と観客の間にはコミュニケーションが始まっています³⁹。」と述べているように、児童書では必ずしも経験することのできないコミュニケーションの経験を紙芝居では必ずすることができる。第二章では、紙芝居脚本と児童書本文の異同について述べたが、以上のような点も紙芝居と児童書との大きな違いであると言える。紙芝居や児童書を活用する上では、それぞれの特徴を理解し、状況に適した方を選択することが大切なのではないかと考える。

今までも述べてきた通り、紙芝居脚本は単に「児童書をより易しい言葉や物語に再編したもの」ではない。これから文学作品としてさらに評価され、研究されるべきであると考えている。

¹ 菊池好江「紙芝居 美しいことばと言ひ回しの妙（追悼 松谷みよ子先生）」『子どもの文化』47（6）、文民教育協会子どもの文化研究所、二〇一五・六、二八、二九頁

² 上地ちづ子『紙芝居の歴史』、久山社、一九九七・二・五

ストーリー性のある絵画を見せながら、語り聞かせることは（絵解き）と称され、『源氏物語絵巻』の浮舟も物語絵を絵解きしてもらっていたことになります。この享受方法は、一般を対象としても用いられ、とくに仏教界で盛んに用いられていました。（中略）享受者は絵を見ているだけでいい。専門の人がわかりやすく語ってくれるのを聞いていればいい。画面は絵巻や掛軸の形式が多く、現在の紙芝居のように一枚一枚が連続するものではありませんでしたが、基本的には紙芝居と同じ享受方法になります。しかも、寺社で絵解きをしてもらう時には、一人ではなく、集団で享受する場合が多く、これも紙芝居的です。（一六頁）

³『第19回特別展「紙芝居展」がやって来た』群馬県立土屋文明記念文学館、二〇〇二・七・二〇

⁴『紙芝居の歴史』前出（二三頁）

立絵は人形劇に近いものです。横一〇×縦二〇センチ程度の紙二枚に、前後から見た登場人物の姿をそれぞれの紙に描き、余分な部分は墨で塗りつぶします。これを貼り合わせて、下部に竹串の把手を

さなうちわ状にします。この人形を黒幕の前で動かして演じるわけですが、写し絵によつて写し出された人物と同じように見えることになります。立絵の人形の余計な墨塗り部分も、黒幕にとけこんで障りません。そうであつても、写し絵のように周囲を暗くしなくてもいいのです。通常の明かりがあれば見せることができます。（二三頁）

⁵今井よね『紙芝居の実際』、大空社、一九八八・四・二四（二八、二九頁）

⁶『紙芝居の歴史』前出、（二九頁）

⁷『紙芝居の歴史』前出

絵話は立絵以前からあるもので、当初の平絵も絵話と称されていた。また、それには二種類あり、一つは幼児絵本としての絵話である。奈良絵本や絵草紙の流れをくみ、とくに低年齢の子どもを対象に絵と文章によつて物語を伝えるもの。二つ目は口演童話である。もともとは口承されてきた昔話を文字化した『日本お伽噺』や『世界お伽噺』を再び口承するように、大勢の子どもたちに話して聞かせることから始まった。音声による言葉だけで語るものだったが、技巧を駆使して講演効果を追求するようになり、絵話も活用されるようになった。（三〇頁）

⁸『紙芝居に関する調査』東京市社会局、一九三五・三・三〇。（九頁）

⁹『紙芝居に関する調査』前出、（一頁）

¹⁰この記述の前に、東京市内にある貸元名、会員数、画工数が五十三社分記載されている。

¹¹前述した表のこと。

¹²『紙芝居の実際』前出、（五三、五四頁）

¹³『紙芝居の歴史』前出、（三九頁）

¹⁴キリスト者で、東京で教会を開いていた。

¹⁵鈴木常勝『メディアとしての紙芝居』久山社、二〇〇五・一・二四（四九、五〇頁）

¹⁶『メディアとしての紙芝居』前出、（六四、六五、六七頁）

¹⁷鬢櫛久美子・種市淳子「保育におけるメディアとしての紙芝居 紙芝居通史を中心に」『研究紀要27』名古屋柳城短期大学、二〇〇五・十二・二〇

¹⁸ 遠山昭雄「紙芝居のいま・これから 高齢者施設と紙芝居」『新紙芝居全科―小さな紙芝居の大きな世界』子どもの文化研究所、二〇〇七・十一・三〇

¹⁹ 野坂悦子「世界でさらに力強く羽ばたくために IKAJA の 5 年間を通じて」『新・紙芝居全科』前出

²⁰ 紙芝居文化の会 <http://www.geocities.jp/kamishibai/outline/index.html> 会員数の集計結果は二〇一六年五月のもの。

²¹ 酒井京子「紙芝居・共感の楽しさ素晴らしさ」『平成 21 年度児童文学連続講座講義録―いつ、何と出会うか―赤ちゃん絵本からヤングアダルト文学まで』国立国会図書館国際子ども図書館、二〇一〇・九

²² 松谷みよ子ホームページ

<http://matsutani-miyoko.net/miyokosroom/publics/index/26/>

²³ 日外アソシエーツ『児童文学個人全集・内容総覧作品名総覧』紀伊国屋書店、二〇一三・十一

²⁴ 歌代幸子「私と母(18)松谷みよ子作家幼いころ、母に言われたのはただ一つ、「いま本を読みなさい」と。』『新潮 45 29(11)』、新潮社、二〇一〇・十一

²⁵ 教育画劇ホームページ <http://www.kyouikugagaki.co.jp/kamishibai/>

²⁶ 童心社ホームページ <http://www.doshinsha.co.jp/>

²⁷ 絵本ナビ <http://www.ehonnavi.net/home04.asp>

²⁸ 『さるかに合戦』における、栗↓蜂↓臼というシンプルなパターンが、教科書と絵本どちらにおいても優勢であるといくこと。

²⁹ 明星大学人文学部日本文化学科ホームページ 勝又基「さるかに合戦いまむかし」

<http://www.hino.meisei-u.ac.jp/nihonbun/lecture/063.html>

³⁰ ふりーかぶる【振冠】頭髮などが顔のまわりに垂れて覆う。日本国語大辞典、JapanKnowledge、

<http://japanknowledge.com.ez.wul.waseda.ac.jp/lib/display/?lid=200203b94fda67561Nb7>

³¹ はる〔助動〕日本国語大辞典、JapanKnowledge、

<http://japanknowledge.com.ez.wul.waseda.ac.jp/lib/display/?lid=200203735359wQ1H4jBI>

³² ようよう「やうやう」【漸】〔副〕日本国語大辞典、JapanKnowledge、

<http://japanknowledge.com.ez.wul.waseda.ac.jp/lib/display/?lid=20020450c797gC3CbdoU>

³³ 全国餅工業協同組合 HP、<http://www.omochi100.jp/kaibou/area.html>

³⁴ JA 京都ホームページ、

<http://www.jakyoto.com/modules/weblinks/singlelink.php?lid=28>

³⁵ 全国餅工業協同組合ホームページ、前出

³⁶ まんが日本昔ばなしデータベース、

<http://nihon.syoukoukai.com/modules/stories/index.php?lid=43>

³⁷ 「ようち」と「ほいく」は小さな文字で並列して記載されている。

³⁸ 酒井京子「紙芝居・共感の楽しさ素晴らしさ」『平成 21 年度児童文学連続講座講義録―いつ、何と出会うか―赤ちゃん絵本からヤングアダルト文学まで』国立国会図書館国際子ども図書館、二〇一〇・九

³⁹ 「紙芝居・共感の楽しさ素晴らしさ」前出

参考文献

- ・菊池好江「紙芝居 美しいことばと言ひ回しの妙（追悼 松谷みよ子先生）」『子どもの文化 47（6）』、文民教育協会子どもの文化研究所、二〇一五・六
- ・上地ちづ子『紙芝居の歴史』、久山社、一九九七・二・五
- 『第19回特別展「紙芝居展」がやって来た』群馬県立土屋文明記念文学館、二〇〇二・七・二〇
- ・今井よね『紙芝居の實際』、大空社、一九八八・四・二四
- 『紙芝居に関する調査』東京市社会局、一九三五・三・三〇
- 髻櫛久美子・種市淳子「保育におけるメディアとしての紙芝居 紙芝居通史を中心に」『研究紀要 27』名古屋柳城短期大学、二〇〇五・十二・二〇
- ・遠山昭雄「紙芝居のいま・これから 高齢者施設と紙芝居」『新紙芝居全科―小さな紙芝居の大きな世界』子どもの文化研究所、二〇〇七・十一・三〇
- ・野坂悦子「世界でさらに力強く羽ばたくために IKAJA の5年間を通じて」『新・紙芝居全科』前出
- ・酒井京子「紙芝居・共感の楽しさ素晴らしさ」『平成21年度児童文学連続講座講義録「いつ、何と出会うか―赤ちゃん絵本からヤングアダルト文学まで」』国立国会図書館国際子ども図書館、二〇一〇・九
- ・紙芝居文化の会

<http://www.geocities.jp/kamishibai/outline/index.html> （二〇一六・十

二・五時点）

・松谷みよ子ホームページ

<http://matsutani-miyoko.net/miyokosroom/publics/index/26/> （二〇一六・

十二・五時点）

-
- ・ 日外アソシエーツ『児童文学個人全集・内容綜覧作品名綜覧』紀伊国屋書店、二〇一三・十一
 - ・ 歌代幸子「私と母(18)松谷みよ子作家幼いころ、母に言われたのはただ一つ、「いま本を読みなさい」と。』『新潮 45 29(11)』新潮社、二〇一〇・十一
 - ・ 教育画劇ホームページ <http://www.kyouikugageki.co.jp/kamishibai/> (二〇一六・十二・五時点)
 - ・ 童心社ホームページ <http://www.doshinsha.co.jp/> (二〇一六・十二・五時点)
 - ・ 絵本ナビ <http://www.ehonnavi.net/home04.asp> (二〇一六・十二・五時点)
 - ・ 明星大学人文学部日本文化学科ホームページ 勝又基「さるかに合戦いまむかし」
 - ・ <http://www.hino.meisei-u.ac.jp/nihonbun/lecture/063.htm> (二〇一六・十二・十二時点)
 - ・ 全国餅工業協同組合 HP、<http://www.omochi100.jp/kaibou/area.html> (二〇一六・十二・十三時点)
 - ・ JA 京都ホームページ
 - ・ <http://www.jakyoto.com/modules/weblinks/singlelink.php?lid=28> (二〇一六・十二・十三時点)
 - ・ まんが日本昔ばなしデータベース
 - ・ <http://nihon.syoukoukai.com/modules/stories/index.php?lid=43> (二〇一六・十二・九時点)
 - ・ 酒井京子「紙芝居・共感の楽しさ素晴らしさ」『平成21年度児童文学連続

講座講義録「いつ、何と出会うかー赤ちゃん絵本からヤングアダルト文学まで」『国立国会図書館国際子ども図書館、二〇一〇・九

・加太こうじ『紙芝居昭和史』、岩波書店、二〇〇四・八・十九

・藤田のぼる「追悼・松谷みよ子 作品を生み出し続けた人…作家・松谷みよ子の生涯と作品」『日本児童文学 61(5)』日本児童文学者協会二〇一五・

九

文字数 ① 32行×25字＝800字

② 800字×53ページ＝42400字